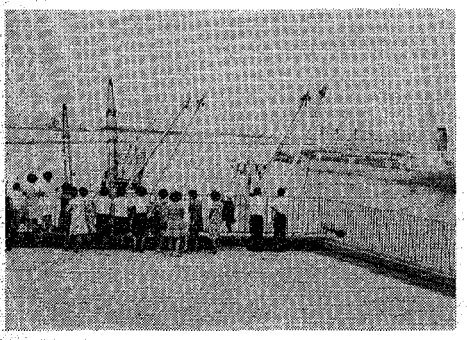
母と子の施設めぐり

好評を博した社会科教室



写真は新潟西港を見学する母と子の施設めぐり

夏休みを活用して「私たちの新潟市の施設を勉強しよう！」と、さる五日、西蒲小、鵜茶小の三年生とその母親七十人が鳥屋野浄水場、西潟帯センター、新潟西港などを見学して回りました。

これは"母と子の施設めぐり"という名で、四年一年から毎年夏休みの時期を選び市が企画、実施している"よい子の社会科教室"です。最初に訪れた鳥屋野浄水場は、信濃川から取水して、各家庭まで水が送り届けられるまでの大きな図を前に、吉井所長から説明を受けました。そして実際に川の水がどんどんきれいな水に変わってゆくようすを見学して興味深そう。

西潟帯センターでは一日に三千人分のゴミを焼却する大型焼却炉にびっくり。最後に回った西港では、大きな貨物船の荷あげ作業やタグボート、巡視艇、漁船など、いろいろな船を見回わして感心したり驚いたり。なお、西蒲小のグループは西潟帯センターを以前に見ているので、水族館の方に回わり、秋山館長から説明を聞きました。

第一回市民徒歩ラリー

三歳から七十歳まで　百十二人が参加

第二回は十月四日、あなたもどうぞ

"足腰を丈夫に、まだ駆け、友だち同志や人の和を"と今月九日に第一回市民徒歩ラリーを実施、百十二人の参加者がありました。第二回は十月四日の予定。どうぞ多数ご参加ください。

写真はスタート前に説明を聞く参加者たち（右）親子で楽しむラリー風景（左）

今月九日、県内では珍しい第一回市民徒歩ラリーが行なわれました。早朝のすがすがしい時三十分に県営陸上競技場正門に全員が集合。

同ラリー参加者は家族組十七組五十一人、友だち組二十一組、六十一人で、参加総数百十二人。三歳の幼児から最高七十歳まで幅広く参加。当日はラリーに先だけ、藤田保健体育課長があいさつ、ラリー担当者から競技規則など詳細に説明があり、引き続き準備体操を行ない、七時からそれぞれスタート。

今回の競技は家族組と友だち組に分け、各組に一枚の地図を渡し、その地図を基にして別の地図に表示してある地点を百分の地図に転記してから各地点の全部を回り、できるだけ早く出発地点にもどるルールでした。

各地点には符号で表示したカードがかくしてあり、そのカードを市・新潟日報社共催で、昭和四十五年度秋季新潟市赤ちゃん、三歳児コンテスト参加者の募集します。愛情をもって育てたお子さんをコンテストしましょう。

日時　三歳児＝九月五日（土）午後一時～九時。赤ちゃん＝九月六日（日）午前九時～三分～午後三時（西新潟地区は午前九時～三分～十一時、東新潟地区は午後一時～三時）

参加資格　三歳児＝昭和四十一年十月一日から昭和四十二年四月一日まで生れたもの。

赤ちゃん＝昭和四十四年十月一日から昭和四十五年四月一日まで生れたもの。

会場　東総合庁舎四階（東保健所）市原町七番一号、バスの車庫まわり山ノ下線・西片原停留所下車、徒歩二分。

参加申し込み　当日会場で受付します。

携帯品　母子手帳

表彰　三歳児の東・西保健所管内それぞれ男女二人づつで合計八人。赤ちゃんも東・西保健所管内から生れ月ごとに、それぞれ男女一人づつで合計一二四人。入賞者には賞状と賞品を贈るほか、県警察の候補に推せんします。

照会先　東保健所（電四四一一一二番）西保健所（電六六一五一七一番）へどうぞ。

赤ちゃん三歳児　秋季コンテスト

九月五・六日、東総合庁舎で

家族組

一位　寺井上（三十八分五十二秒）二位　菊地健一（三十九分二十七秒）三位　加茂千太郎（四十分三十二秒）四位　岡正隆（四十分四十秒）五位　大屋誠（四十一分八秒）六位　増田要（四十三分）六位　長谷川生子（四十三分）

友達組（代表者名）

一位　佐藤正司（四十一分四十六秒）二位　中山勝男（四十七分三十五秒）三位　二宮順治（四十九分四十八秒）四位　石井正二（五十分三十五秒）五位　大野五也（五十三分四十七秒）六位　鶴巣孝（五十七分二十四秒）

なお、第二回徒歩ラリーは十月四日に行なわれる予定です。家族で、また友だちを誘い合って多数ご参加ください。

第一号表彰は二人

有職者青少年善行推奨基金

新潟市鶴山町一の建金茂さん（ニ）＝日本新潟鋼材勤務＝と同市早川町二、佐藤和夫さん（ニ）＝小林金物勤務＝の二人は、このほど有職青少年善行推奨基金（和田関吉理事長）の第一号として表彰されました。

この善行推奨基金制度は市内の職場から寄せられた百万円を基金に働く青少年の善行をたたえようと昨年十二月発足しました。

建金さんは市立第ケ岡高校四年生で、職場では同僚の信望が厚く青少年班のリーダーをつとめ、学校では学年以来一日も休まず生徒会長の重責を果し優秀な成績をあげています。

また佐藤さんは市立鶴山高校一年生で職場の勤務、学校の成績も優秀な模範生。特に昨年一月には市内で発生したひったくり犯人を路地に追い込み、自らとらえて警察に引き渡すという殊勲の持ち主です。二人は市役所で鈴木助役から表彰伝達を受けました。

世界の願い交通安全

交通事故の上半期統計がまとまりました。市内も年々事故増になっています。運転者、歩行者とも気をつけましょう。

交通事故発生状況（1～6月）

区分	比較	45年	44年	増加数	増加率
新潟県	事故件数	1,357	1,163	194	16.68
	死者	22	14	8	57.14
	傷者	1,690	1,451	239	16.47
新潟市	事故件数	5,352	4,378	974	22.24
	死者	151	147	4	2.72
	傷者	6,590	5,464	1,126	20.61
全国	事故件数	330,560	324,780	5,780	1.78
	死者	7,735	7,256	479	6.60
	傷者	439,746	423,662	16,084	3.80

音楽の先生を派遣

市教育委員会は、市民の音楽活動の拡充を図るため、指導者にめぐまれない寡少団体、グループに指導者を派遣します。希望団体は学配を参照のうえ、社会教育課（公会議内）に申し込みください。

○内容　コーラス・ギター・マンドリン・フルート・クローダー・アコーディオン・尺八・琴曲。

○対象　市内のアマチュア音楽団体、職場の音楽愛好会（学生、生徒を除く）で十人以上の団体。

○指導料　無料

○申し込み方法　用紙は社会教育課（公会議内）に備えてありますので、所定事項を記入のうえ、申し込みください。

○申し込み期限　九月五日必着。

○あて先・照会先　公会議内、社会教育課芸術文化係（二一851、一番直通電話八一一〇〇〇番、内線四五一番）へどうぞ。

市政雑感

○…去る八月八日、東京で上越新幹線促進期成同盟会の総会が開かれた。県会長、群馬県知事の神田副会長らのほか、田中幹事長も出席され、それぞれの努力で具体化の方向に進もうとしている。私は何べん、上越新幹線の実現とそ新潟の、新しい飛躍へのキメ手と考え、最善の努力を続けている。

○…その傾えとして新潟市ではことしの六月に北都工業開発大の山口五郎教授に調査を依頼、われわれが進めべき道への資料調整をお願いした。山口教授は四十七年開通予定の関山市と東北新幹線の拠点となる仙台市について、市当局の心構え、市民の組織の度合などについて調べ上げ、その報告書を出してくれた。

○…山口メモによると同市とも新幹線には大きな期待をかけているそうだ。岡山は大阪市立大学に都市機能調査を、また岡山大に経済調査を依頼し、上越新幹線経済影響調査の報告書を受けている。

同市では助役を本部長に関係本部を設けコンサルタントの役目として学者もこれに参加させ全市あげて取り組んでいる。

○…仙台市では特に新幹線と結打ってはいないが交通問題を組織した交通計画調査会の組織学者もまじえてやはり積極的な意欲をみせている。

○…上越新幹線が新潟～東京を九十分で結ぶという組織的な認識程度では必ずしも得ないのである。山口メモが指摘するように新幹線がもたらすものがプラスになるかマイナスになるか。つまり、巨大な経済交流がなされたとき、逆流現象が起こればそれこそ巨大なマイナスである。都市計画、都市機能との関連や、新潟の経済基盤、市民生活と広範囲な国家新幹線という観点から見つめなければならない。

○…仙台市に刺激されて目をさますようでは駄目にならない。しかも上越新幹線の開通は明日に迫る単大事だと私は思う。その対策を練ることは当然であり、調査機関を設け、全市民の衡さんと真剣に、懸命に勉強し、考え、実行に移してゆきたいと私は考えている。

新潟市長　渡辺浩太郎

渡辺歯科医院
渡辺　肇
診療時間　10:00am～1:00pm　2:30pm～6:30pm
新潟市東大通2の19（旧駅前通）
山崎新聞店2階　TEL44—1679

好評連日満員御礼
サービスタイム A.M.11時～P.M.2時　※ただし日曜・祭日は休ませていただきます
本店／生ちらし……¥150
東堀店／弥助定食・刺身定食……¥170
弥助寿司
本店　西堀通5　電23—1484・22—5956
東堀店　東堀前6　電22—3422
西堀店　西堀前6　電23—4030
石山店　団地前　電47—6855

良い音を求めて15年
音楽の事ならぜひ！
カネコ楽器で
西堀前六高見ビル四階　電話(28)一七二三～二三番

胃腸科・放射線科
真保診療所
真保　禎二
診療時間　午前9時～午後6時
新潟市古町通り4（寿古堂ビル2階）
電話　23—2069

そばの山文
新潟市古町6　電話(0252)22-3027・9543

畠野産婦人科
電話47—3536
はたの薬局
電話47—9447
新潟駅うら　笹口交番前
バス停笹口（弁天線又は蓮潟線）

石川整形外科
新潟市文京町
（金衛町線バス終点前）
電話66—8136（代）